

新聞の政治記事におけるステレオタイプの表現

——「流産」「陣痛」「難産」の使用について——

木 戸 光 子

1. はじめに

「政治」が話題となっている記事の中に、政治以外の語が比喩表現の一種として出てくることがある。例えば、政治以外の語が集中して出てくる例としては、政権交代の記事において、「船出」「難航」といった航海関係の語、「舞台裏」「第二幕」といった演劇関係の語、「陣痛」「産みの苦しみ」「誕生」といった出産関係の語が使われている。これらの中には辞書の定義として比喩的用法あるいは慣用的用法として記載されているものもある。さらに、出産関係の語の使用については、木戸（1995）で指摘したように、細川内閣から羽田内閣への政権交代の記事に集中して出てくる例が見られ、「迷走・陣痛やっと合意（朝日新聞1994年4月22日付）」や「羽田内閣はゴール目前で“産みの苦しみ”が続いた。（読売新聞1994年4月20日付）」「羽田内閣が誕生（朝日、読売、毎日新聞1994年4月25日付）」のような表現がある。これは、表現効果をねらってたまたまその記事にだけ使われているというより、むしろ細川内閣から羽田内閣への政権交代の困難な状況を表すのに使われていると言える。また、複数の全国紙に同類の表現が出てくると、さらに出産関係の語が複数使われていることから、ステレオタイプ化していると言える。つまり、比喩表現の使用のうち、この話題にはこの表現、この内容にはこの表現といったように同じような話題・内容を表すのにある特定の比喩表現が用いられることである。そして、比喩表現がステレオタイプ化するところに問題がある。

「産みの苦しみ」「陣痛」「誕生」のような語は、出産に関する話題の記事で出産関係の語として使われるかぎりには、表現者が記事対象への卑下や快・不快の感情などマイナス評価を意識的に行ったものではないと思われる。しかし、政治記事という一見関係ない話題においてこのような語が使われ、しかもステレオタイプの表現として出てくるのは単なる偶然ではなく、何らかの社会的な

要因があるのではなかろうか。そこで、本稿では、新聞記事におけるこのようなステレオタイプの表現とみられるもののうち、政治記事における「流産」「陣痛」「難産」という語の使用の実態、および、社会的な規範意識をさぐる一つの手がかりとして辞書の記述を調査し、社会的存在としての表現の側面を考察する。

2. 新聞記事と出産関係の語の使用

政治に関する新聞記事の中に、しばしば政治を出産に関わることに喩えて表現する例が見られる。このような表現は政治家自身の発言として新聞記事の中に出てくる場合もあれば、記者の書いた新聞記事の表現として出てくる場合もある。政治家等が用いた表現をそのまま引用して報道する場合では、政治家の問題発言として取り上げられることもある。

例1. 都市博中止についての東京都議会での答弁の報道（一部略）

都市博特別委「決断いまは白紙」A知事 政治姿勢でも攻防（見出し）

【妊娠八カ月】都市博の準備の進みぐあいをK氏は「妊娠にたとえば何カ月か」と質問。I・東京フロンティア推進本部長が「これまで準備が八年かかっていますから、八か九か」と答えた。さらにK氏は「これを今から堕（お）ろそうといえ……。無茶なことはしないように」。

（朝日1995年5月16日付）

例2. 都市博中止についての東京都議会での答弁と答弁に対する抗議の報道

「都市博は妊娠8-9カ月 おろしたら犯罪」都議会の特別委「不見識な」
質疑 女性議員激怒（見出し）

世界都市博覧会の準備は「妊娠でいうと何カ月？」——論戦が続く東京都議会の都市博特別委員会十五日、委員からこんな質問が飛び出し、女性議員から「不見識」「許せない」と反発の声が上がる一幕があった。

質問したのは自民党のK委員。これを受け、都市博担当のI・東京フロンティア推進本部長が「（妊娠）八-九カ月にあたるかと思う」と答弁。さらにK委員は「いまからおろしたら、犯罪にもなる」「母体を大事にすべきだ」と発言、A知事の中止方針を批判した。

出席していたI委員（生活者ネットワーク）は「都市博問題とは全く別の

次元。不見識もはなはだしい」と激怒。N委員（共産）も「議会の権威どころか、人間性を疑う。質問する方も答弁する方も許せない」と声を荒らげた。女性委員だけでなく、公明の〇副委員長の感想も「女性を軽視するような例えは適切を欠く」。

K委員は「引き返せない時点に来ているということを強調したかった」と浮かない表情だ。
(毎日1995年5月16日付)

以前、東京都では、前知事の時代に準備していた世界都市博覧会に、バブル経済崩壊のため参加する企業が集まらなくなったにもかかわらず、開催の準備を進めていた。1995年春の都知事選で都市博中止を唱えて当選した青島知事の下、都議会で都市博を中止するか開催するか議論された。その時の都市博賛成派議員の発言を引用して伝えたのが例1と例2の記事である。さらに、例2では議員の発言の表現について女性議員からセクハラ発言だとの抗議があったことも伝えている。

また、記者の書いた新聞記事の表現として出てくる場合、次のようになかなか進まなかった政権交代の様子を表す記事に集中して出てきている。

例3. 細川政権崩壊後から羽田政権発足までを報道した新聞記事の表現

(1) 「産みの苦しみ」「生みの苦しみ」の例

「羽田政権」産みの苦しみ、…長い混乱は「産みの苦しみ」といった言葉ではすまない…、「生みの苦しみ」は当然、…よりよい「生みの苦しみ」にすることが、…、

(2) 「陣痛」の例

迷走・陣痛やっと合意、「羽田内閣」長びく陣痛

(3) 「誕生」の例

「羽田内閣」あすにも誕生、…せっかく「羽田政権」を誕生させても…、羽田政権が誕生、…羽田内閣の誕生で…

(朝日・毎日・読売1994年4月9日(土)から4月28日(木)までの記事より。木戸(1995) 参照。)

1994年4月、細川首相が辞任した後、次の首相が何週間も決まらず、やっと羽田氏が首相となり羽田政権が発足した。政権発足までの過程について、新聞は「産みの苦しみ」「生みの苦しみ」「陣痛」という語で表現し、政権が発足す

ると「誕生」という語を用いている。政権発足までの数週間の記事の表現を追ってみると、政権交代までの一連の出来事を出産に喩えているかのようである。

さらに、出産関係の語の使用は、新聞の政治面だけでなく経済面やスポーツ面などにもあらわれる。例えば、見出しの「胎動7000万人ベトナム市場」（経済面、朝日1994年4月24日付）や「おまたせ宮本難産の初勝利」（スポーツ面、朝日1994年4月29日付）などである。また、事実報道の記事だけでなく社説にも出てくる。

例4. 「産みの苦しみ」の例（__は木戸が後から引いたもの）

呪文では済まぬソ連経済改革（見出し）

市場経済とは、そう簡単につくり出せるものだろうか。ソ連や東欧諸国で市場経済への移行を急ぐ急進派の主張を聞いていると、こんな疑問が出てくる。

市場経済を人間の身体にたとえれば、米国や日本のそれは成人のものだ。今はそれぞれ円滑に動いているが、一夜にしてそうなったわけではない。産みの苦しみ（離陸する前の困難）もあったし、死を予想させるほどの病氣（大不況）も経験している。そうして育ってきたのである。

その過程を飛び越して、先進国から資金を導入し、株式会社、銀行、証券取引所といった仕組みや機構を、あたかも臓器移植のように持ってくれば、市場経済は完成する。（以下略）（朝日1991年10月15日付）

以上、政治記事を中心に新聞記事における出産関係の語の使用を見てきた。語の意味という点からは、その語本来の意味場（この場合は「出産」）とは異なる意味場（「政治」）で語が用いられていると説明できる。特に、細川政権から羽田政権への政権交代の記事例は、ある特定の語がたまたま用いられたというより、特定の話題を表すのに出産関係の複数の語が使われていると考えてよいだろう。これは、ある政権交代を表すのに「陣痛」「産みの苦しみ」「生みの苦しみ」「誕生」といった語が調査した各新聞に用いられており、特定の内容が特定の表現で常に表されているという点で、ステレオタイプになっている例として挙げられる。「陣痛」のような出産関係の語がたまたま「政治」を表す際に比喩表現として用いられているというより、本来なら政権交代とは関係ない意味を示す語が集中して用いられていると言えよう。

3. ステレオタイプ化の様相

新聞報道をする側でも2で述べたような言葉の使用について問題意識を持っている。毎日新聞女性記者の座談会（毎日新聞大阪朝刊1994年4月21日付）では、「法案が流産する」「女房役」という表現の問題点を指摘している。

例5. 毎日新聞女性記者の座談会（一部）

企画特集 毎日新聞4万号 ニューパワーが変える 本社女性座談会
（見出し）

G 言葉の面では「法案が流産する」という時の「流産」という使い方は、本当にイヤ。それに「女房役」も。

E そういう表現を問題にする時の、主張の仕方が難しいんですよ。大上段にふりかぶると、正論でも「女はすぐキーキー言う」と感情的に反発されるから。

B でも、ここ数年、セクハラが社会的な問題になってからずいぶん反応が変わりましたよ。男性も、あっ、言うてはいけないことなんだな、とまずは納得するようになったから。

（毎日・大阪版1994年4月21日付）

しかし、「流産」「女房役」といったような表現は今も新聞記事の中で使われている。新聞報道で政治家の発言が問題発言として取り上げられることもあるが、政治記事を書く記者自身もそのような表現を使っている。ここでは、政治記事における使用の実態と社会的な規範意識を探るため、出産関係の語のうち「流産」「陣痛」「難産」について、4つの全国紙の政治記事における使用状況、および、辞書の語の定義について検討する。

3.1 「流産」「陣痛」「難産」の使用について

政治記事における「流産」「陣痛」「難産」の使用状況について、日経テレコンの新聞記事データベースのキーワード検索を利用して、1987年から1997年11月までの朝日・毎日・読売・日本経済新聞の記事を調査した。「流産」と「政治」、「陣痛」と「政治」、「難産」と「政治」についてAND検索を行い、検索結果のうち国内政治と国際政治の記事を抽出し、表1にまとめた。なお、新聞記者の署名記事や評論家・学者など専門家の解説記事等で新聞記事データベ

ス上に公開されているものは含めているが、朝日の「声」や読売の「気流」のような投書は除いている。

使用状況について、「流産」「陣痛」「難産」のうち、「流産」計17例、「陣痛」計16例、「難産」計110例であった。「流産」「陣痛」「難産」の使用例に比べ、「難産」の使用例は圧倒的に多い。「難産」は、「難産の末」49例、「難産の子はよく育つ」8例で、慣用句のように使われている。また、その中で政治家等の発言の引用として出てくる例は、「流産」3例、「陣痛」8例、「難産」14例である。

使用状況で目立つのは、1989年の宇野内閣、1990年の第二次海部内閣、1993年の細川内閣、1994年の羽田内閣に関連する記事に出てくることである。海部・細川氏については、表1-3の例から見ると、本人の発言から「難産」という表現が広がっていったふしもある。つまり、政治家の用いた表現がそのまま定着して以後の記事にたびたび同じ比喩表現が引用される場合である。

例えば、1993年に新党さきがけと日本新党が一つの党になるかどうか話題になったことがある。その時、新党さきがけ代表の武村正義氏が両党の関係を「婚約」に喩えたことから、マスコミ報道では両党が一つの党になるかどうかを「結婚」はいつか、のように喩えていた。その後、武村氏と日本新党党首の細川護熙氏の不仲から両党が一つの党にならないことが明らかになると、「離婚」に喩えていた。

この例は、単に「婚約」「結婚」「離婚」が比喩表現として用いられるのではなく、むしろ政治の一連の動きを「婚約→結婚→離婚」という枠組みでとらえていると言える。このような比喩表現を用いると、読み手の生活によりなじみ深いものに置き換えてありわかりやすくなるという利点がある。その反面、本来の意味とは別な意味に置き換えられて考えられた結果、いつのまにか問題の論点がずれる恐れもある。もし、仲良くなれば結婚し、けんかすれば離婚するといった政党のとらえ方で報道されるとすれば、結婚の意味づけにしても政治の意味づけにしても安易にすぎよう。

それから、なかなか内閣が発足しないことを「難産」に喩える表現は、表現効果をねらったの使用とも考えられる。しかし、同じような状況になるたびに同じ比喩表現を用いれば、読み手に大した印象を与えない、使い古された陳腐なステレオタイプの表現になる。「難産の末」のような表現はこれだけ多用されていれば、表現効果はなく単なる慣用句になっていると言える。

表1-1 政治に関する記事の「流産」の使用状況

(()) の中は掲載月日。「他」とあるのは表現者が記者以外の場合。「引」は政治家等の発言を引用した場合。／は同じ記事に複数出てくる場合。)

年	朝 日	毎 日	読 売	日 経
1997	新憲法づくりも流産してしまうだろう。(8.7)			
1996				
1995	北京の第三次南北当局者協議の流産が決定的になって (8.16) 提起しながら流産したり(他6.10)			
1994	中曽根内閣のときの売上税を流産に追い込んだ(他8.5) 海部俊樹元首相も(略)「一回流産させた子供を、体外受精でもう一度産ませるんだ」というのが口癖だ。(引1.28) 「流産なら改革できない」政治改革法案に自民で賛成の林氏／林氏は「これまで海部、宮沢内閣で二回も流産している(略)」。(引1.22)			
1993	政治改革法案の流産から、自民党の分裂が飛び出した。(6.19) 宇垣内閣の流産などの政治活動(他3.14) ブッシュ大統領(当時)が(略)拒否権を発動して流産していた。(2.6)	野党は(略)「流産」も辞さず(11.21)		
1992			前国会では、与野党間で政治改革について十八項目の合意がありながら、(略)流産してしまった。(11.18) ブッシュ米大統領は(略)ブジモリ・ペルー大統領について「民主政治の流産」とその措置を非難し(引4.11) PKO 法案が流産しかねない(3.9)	
1991				
1990			次いで組閣を命じられた宇垣一成は(略)流産。(1.17)	
1989				政権協議は流産確実であり(9.15) 「カナダ国家統合」流産も／念願の「国家統合」が流産する恐れも(7.29)
1988				
1987		中米和平サミット(五カ国首脳会議)が「流産」し(7.19)		

表 1 - 2 政治に関する記事の「陣痛」の使用状況 (1997年11月～1987年)

年	朝 日	毎 日	読 売	日 経
1997				
1996				
1995	金大中新党は、予想外の陣痛に見舞われているが、(7. 16) 円高は三極通貨体制移行期の陣痛／現在の一連の現象を、三極通貨体制移行期の陣痛と受けとめ、(他4. 28)	二十五日の野中広務自治相(国家公安委員長のインタビュー (略) 二十一世紀に健全な日本になるための陣痛だという気がする。 (引15. 26) 今回の政変が(略) 真の政治刷新への陣痛となるのか。(1. 7)		
1994		ポスト・ポスト冷戦事態の理念作りへの陣痛として、理解したい。(11. 10)		
1993		「この苦しみは世界の中で日本が真に開かれた国となるための陣痛の試練であります」。細川護熙首相が(略) (引12. 14) これを「現実政党へ脱皮する陣痛」としてとらえ、(略) と考える党幹部もいるというが、(引11. 27)	与党第一党がみせた今回のドタバタ劇も、責任ある政党への陣痛だとすれば、 (12. 15)	首相の顔には徹夜の疲れがにじみ、「この苦しみは世界の中で日本が真に開かれた国となる陣痛の試練」との、理解を求める言葉もどこか力なく聞こえた。 (引12. 14)
1992	「民主タイ」へ陣痛 (9. 19)		羽田孜蔵相は(略)「(略) 今は新しいものを産み出すための陣痛の苦しみを味わっている時期だ」と述べ、 (引11. 15)	
1991	冷戦構造の崩壊で、世界はいま、新秩序誕生に向かう陣痛のさ中にある。(6. 26) あまりに高価な近代化の陣痛／政界や言論界では「近代化の過程での陣痛」との分析も出ているようだ。(引15. 10)			
1990				
1989	「政治や文化の面で日本が成熟するか、墮落するか、瀬戸際の陣痛だよ。」(引14. 26)		今でこそ躍進著しい韓国だが、あのころは陣痛の時期であったかと思う。 (他4. 17)	
1988				
1987				通産省首脳も同日、「すでに陣痛が始まっている」と述べ、(引10. 23)

表 1 - 3 政治に関する記事の「難産」の使用状況 (1997年11月～1987年)

年	朝 日	毎 日	読 売	日 経
1997	歴史共同研究の提言も、難産ではあったが、共同委員会の設置にこぎつけた。(9.12) 一九九〇年二月二十八日の未明、第二次海部内閣が難産の末ようやく誕生した。(9.10)	だが、PKO 協力法を難産の末に成立 (92年) させたものの、(8.9) 午前11時ごろから午後3時半まで本会議が中断する“難産”となった。(6.12) しかし、採決では、賛成と反対が11対11と拮抗、議長裁決でようやく決まるという“難産”の末の決着だった。(3.20)	野党3党、2兆円減税など要求 財源問題は棚上げ 相違目立つ思惑、難産の合意／新進、民主両党の間には感情的なしこりも残る難産の合意になった。(11.20)	
1996	政治改革の柱として難産の末に導入が決まった、今度の衆院選の新制度 (小選挙区比例代表並列制)。(10.18)	予算陳情のため上京中の堀達也知事は (略) 難産の末に決着を評価した。(12.26)	次期衆院選大分3区、自民難産の擁立 (9.7)	
1995	戦後50年の国会決議、難産の与野党案、各界の反応さまざま (6.7) 対日関係重視を掲げる金泳三政権内には、難産だった「植民地支配」「侵略」が盛り込まれる方向となったことに内心、少しほっとしている空気が感じられる。(6.7) 難産だった保守陣営の調停役の立場だったが、(1.25)	FSX は (略) 難産の開発機種だ。(8.1)	政治改革関連法案が難産のうへ成立し、(9.8)	難産改造、自社にしこり (8.9)
1994	選挙区支部が難産 区割り法成立 (11.22) 難産の末の政治改選関連法成立、(10.28) 議長選汚職が発覚してから一年以上が経過するなか、難産の末の採決だった。(9.27) 難産だった羽田内閣も発足した。(5.2) 松永中経連会長 (中部電力会長) は「難産の末、羽田内閣が誕生したが、厳しい船出といわざるを得ない。(略)」(引14.29) 難産の末に羽田政権が誕生した。(4.26) 日本新党愛知の河村たかし会長は「難産の子は、とも言われるように政界再編第二幕の荒波を力強く乗り切っていたきたい。」(引14.23) 細川護熙首相の後継選びは、難産の末、二十二日になってようやく「羽田政権」誕生が確定した。(4.23)	「難産の訪韓」の項が興味深かった。(引17.12) 細川護熙前首相が退陣表明してから実に三週間も貴重な時間を費やす難産であった。(4.29) 難産の末の「船出」に、「短命説」が現実味を帯びて永田町に流れる。(4.28) 細川護熙首相の辞任表明から二週間、難産の末の首相指名に、(4.26) そして今、政権発足五カ月余にして、難産ではあったが、とにかく法案が成立、懸念の小骨は外れた。(1.30)	新政党の奥田敬和・元運輸相は (略)「一番怖いのは、難産でこじれて (略)」と述べ、(引12.3) しかし、難産の末に成立した政治改革法を無駄にはいけない。(他5.4) 難産の末、羽田新内閣が二十八日発足した。(4.29) 難産の末、政治改革関連法が二十九日成立し、(1.30)	難産の訪韓 (5.20) 難産の末、ようやく羽田内閣がスタートした。(5.2) 「難産の子はよく育つ」と言うが、昨日産声を上げた羽田新内閣には、あてはまりそうにない。(4.29) 難産の末、羽田新首相が選出された。(4.26)

1994	<p>小選挙区比例代表並立制を柱とする政治改革関連法が、難産の末に成立した。(2.10)</p> <p>難産の末に一九九四年度一般会計予算の大蔵原案が十日、各省庁に内示された。(2.11)</p> <p>また、同法が参院本会議で否決されながら逆転成立に持ち込む難産になったのも、誤算だった。(2.8)</p> <p>朝日新聞社に寄せられた投書では、公約だった政治改革を難産の末、成立させた直後だけに「裏切られた」との思いを訴えるものが目立っている。(2.6)</p> <p>公約だった政治改革関連法を難産の末、成立させた細川護熙首相。(2.5)</p> <p>経済界ではこれまで、難産の政治改革にいらだち、(1.30)</p>			
1993	<p>難産だった欧州連合条約(マーストリヒト条約)が発効したばかりである。(12.7)</p> <p>4カ月の難産、吉元政矩氏就任へ 沖繩副知事 (10.16)</p> <p>国連平和維持活動(PKO)協力法が難産したときも、(9.15)</p> <p>特別国会の召集から五日目の正式発足という難産だったが、(8.10)</p> <p>非自民・非共産による「細川政権」が難産のすえ産声を上げた。(8.8)</p> <p>難産の末に誕生した細川首相と、(8.7)</p> <p>「難産の子はよく育つ」(略)</p> <p>細川護熙・日本新党代表は、政治空白を心配する竹村正義・新党さきがけ代表にこう語った。(引8.7)</p> <p>「難産の赤ん坊がようやく生まれました。ああよかったと、ほっとしました。」(引8.7)</p> <p>難産の末、「細川首相」が誕生(8.7)</p> <p>細川護熙代表が「難産の子はよく育つ」と話すと、(引8.6)</p> <p>「新生党」の党名は難産 記者会見直前に決定 (6.24)</p> <p>昨年四月の総選挙後、難産の末に発足した 同内閣は、(4.23)</p>	<p>エリツィン大統領の訪日は難産の末の実現だが、まずいタイミングになってしまった。(10.10)</p> <p>与党の選挙制度改革案もかなりの難産だった。(8.29)</p> <p>難産の末、ようやく誕生した細川連立内閣。(8.10)</p> <p>難産だった細川連立政権の閣僚名簿が九日、発表された。(8.9)</p> <p>一連のドタバタを、「前途を象徴する」と自民党はやゆし、「難産の子はよく育つ」と連立側は切り返す。(引1)／難産だった新政権誕生の産声だった。(8.7)</p> <p>組織編成、難産の末民間参加、IOCがクレーム／3カ月近く遅れる難産で誕生した新会社だが、(6.29)</p>	<p>政治改革法案が難産の末、衆議院を通過したが、(他11.30)</p> <p>組閣“難産”の片山内閣／首相指名から九日間、総選挙から一ヶ月余の難産だった。(8.11)</p> <p>難産の末に誕生した細川新政権。(8.9)</p> <p>初めて国会に臨んだ新人代議士は、難産の首相指名をどう受け止めたか。(8.7)</p> <p>首相指名投票も難産の末(8.7)</p> <p>佳代子さんは、(略) 指名の瞬間(略)「難産の赤ん坊がやっと産まれた。すんなり産まれるよりよかった」と喜びを表した。(引8.7)</p> <p>難産の子は育つ／「でも、難産した子供は大きく育つと言われるだけに、(略)」(引8.6)</p> <p>スタートを目前に、難産している細川新政権。(8.6)</p>	<p>十六日、難産の末、衆院の特別委員会で可決された政治改革関連法案。(11.17)</p> <p>難産の末、ようやく船出した細川連立政権。(8.10)</p> <p>細川政権は予想以上の難産だった。(8.10)</p> <p>二日間にわたる難産の末、六日深夜ようやく誕生した細川新首相。(8.7)</p>

1992	<p>いずれ、必ず決まると思う。難産の子は育つものだ。(引6.7)</p> <p>昨年末の総選挙後、難産の末成立したオルシェフスキ内閣は(5.18)</p> <p>難産の末に候補者を決めた連合栃木の発の「挑戦」は(5.4)</p> <p>「難産の末に、政治を変える熱い思い、を持った候補を探し得た」。(引14.12)</p>	<p>国連が七日、難産の末にまとめた温暖化防止法案は(5.9)</p> <p>難産の子供たち／“予定日”よりも大幅に遅れ、たくさんの罪のない市民の血を流した末の難産だったが、「難産の子はどかわいい」というように(2.5)</p>		
1991	<p>難産 バイロット自治体構想をめぐって、部会はもめた。(12.6)</p> <p>“難産”だったのは地方自治法98条の「検閲検査権」行使にとどめるか、(略)方法論でもめたからだ。(10.3)</p> <p>だが、牧野権立は難産だった。(9.18)</p> <p>鈴木永二・行革審会長は答申後、「難産の子は強く育つ」と語ったが、(引9.14)</p> <p>難産の末、5日に牧野蒼子氏(57)を公認したばかりの社会党。(9.8)</p> <p>野党の抵抗も加わって、難産の法案は前途もまた多難だ。(7.10)</p> <p>自民党の安倍派が三塚派に衣替えしたが、難産の原因は。(7.5)</p> <p>陶淵明は悠然として南山を見わが宰相は悠然として難産を見る、いつのことやら政治改革。(4.13)</p>			
1990	<p>難産の末に第2次海部内閣誕生。(3.5)</p> <p>難産の末に第2次海部内閣を発足させただけに、(3.1)</p>	<p>ソ連の経済改革計画は十九日、ようやく採択されたが、昨年十一月の政府原案公表以来、約一年を要する難産だった。(10.20)</p> <p>紛争解決への足がかりとなる国内四羽署名の共同声明案を、難産の末にひねり出した全当事者和平会議を締めくくった時の一幕。(9.11)</p> <p>難産だった組閣を終えて、夢は保養地をかけめぐる。(3.1)</p> <p>第二次海部内閣は、首相指名から閣僚名簿発表まで約十時間もかかる難産の末、二十八日未明ようやく発足した。(2.28)</p>	<p>難産のすえ誕生した大統領制に至るまでの高いの舞台裏と今後の展望を(略)／難産の末の大統領職でゴルバチョフ氏はまず何に手をつけるのだろうか。(3.15)</p> <p>難産組閣招いた派閥の論理(2.28)</p>	<p>“難産”の後も解釈三者三様／思いのかかった塚本氏が「難産の子はよく育つ」とニンマリすれば、(引14.20)</p> <p>東独の大連立内閣が難産の末ようやく発足、(4.15)</p> <p>海部首相と難産の女房役である坂本官房長官との関係はやはり微妙なようだ。(3.11)</p> <p>難産の末、誕生した第二次海部内閣は、(略)／難産ではあったが、リクルート関係議員やロッキード事件の佐藤孝行氏を閣僚人事から排除することには成功した。(3.1)</p>

1989	難産の末、宇野新政権が誕生したことに対して、(6. 3)	難問山積み「難産内閣」総選挙へ“顔”作り－海部新政権 (8. 10) 難産の末にやっと産声を上げた新生宇野政権。(6. 3) 難産の末、暫定政権が成立することで、ゲリラ側はナジブラ政権に軍事攻勢をかける体制が一応整いそうだ。(2. 19)	ポーランドは六月の総選挙から二か月近く難産の末、ヤルゼルスキ氏を大統領に選んだばかりだが、(8. 2)また、“難産”していた宇野首相待望の首相を問む会を「朋佑（ほうゆう）会」と名付けて発足させることを決めた。(6. 21) 東京都の公共料金へ消費税を転嫁する五条法案が、三十日の都議会で成立しが、付帯決議で四月からの転嫁は事実上たな上げされるという難産だった。(3. 31) 難産の税制改革法案がようやく成立をまつだけとなった (1. 5) 中央から地方への権限移譲ひとつをとっても難産は必至。(1. 4)	難産の末、誕生した宇野新政権。(6. 3) 座長から難産の政治改革／最も難産だったのが座長選び。(1. 30)
1988	さまざまな疑問を抱えながら”難産の子”大型間接税は数の力で誕生の日を迎えた。(12. 25)			難産の末、パキスタンにブット新政権が誕生したが、新首相の課題は多い。(12. 2)
1987				

政権交代についての政治記事における出産関係の語の使用状況を見るため、政権交代の時にかなりの混乱があったと考えられるもののうち、吉田内閣→鳩山内閣（1954年12月10日に政権交代）、石橋内閣→岸内閣（1957年2月25日）、岸内閣→池田内閣（1960年7月19日）、田中内閣→三木内閣（1974年12月9日）の政権交代を報道する記事を朝日新聞縮刷版でたどってみたが、出産関係の語の使用は1例のみであった。三木内閣発足時に宇都宮徳馬議員が入閣できなかったという社会面の記事に「自民党内に根強い派閥力学のカベを強く印象づけた流産劇だった」という表現が使われていた（朝日1974年12月10日付）。なかなか政権交代が進まなかった内閣の場合でも、政権交代の記事に出産関係の語が頻繁に出てくることは以前はなかった可能性もある。

3.2 辞書の記述

政治記事の中で「流産」「陣痛」「難産」が使用される理由として、次の2つが考えられる。

- (1) 比喩的意味として表現効果をねらって用いる
- (2) 辞書的意味として表現効果とは関係なく用いる

ここでは、いくつかの国語辞典の定義を調べることで、これらの語の使用の社会的な規範意識を考察する。また、出産以外の意味がどの程度定着しているのを見るための参考として、和英辞典の記述も見てみることにする。以下、表2に調べた結果をまとめた。

表2-1 「流産」「陣痛」「難産」の国語辞典の定義の例

(太字は出産以外の定義。ただし「日本国語大辞典」の③は除く。)

辞書名 (版、刷) 発行所 発行年	「流産」	「陣痛」	「難産」
ブックシェルフ マルチメディア統合辞典 (CD-ROM) マイクロソフト／ 小学館 1997年(原典 は「国語大辞典」小学 館, 1988年)	①胎児が月満たずに死んで生まれること。妊娠七か月未満で胎児が死んで生まれること。②計画・事業などが途中でだめになり実現しないこと。	①分娩時に周期的・波状的に反復して起こる子宮の収縮。また、それに伴う痛み。②(転じて)物事ができあがるまでの苦労。	①出産が困難なこと。苦しんで分娩(ぶんべん)すること。②(比喩的に)物事が容易に成立しないこと。長びいてなかなか埒(らち)が明かないこと。
広辞苑 第4版 (CD-ROM (カラー) 版) 岩波書店 1995年	妊娠第二四週未満の胎児が母体から娩出されること。児は未熟で分娩時生命があっても生存の可能性はほとんどない。うみながし。半産。→早産(ソウザン)。転じて、計画などが実を結ばず、流れること。	分娩に際し、定期的に反復して起る子宮の収縮。また、その痛み。胎児排出力の主要部分をなすもので、初めは徐々に起り、次第に強烈となる。転じて、物事の完成直前の苦労にたとえる。	出産が平常でなく困難なこと。「長男は一だった」⇔安産。比喩的に、物事がたやすく成立しないこと。「一の末に成立した法律」
岩波国語辞典 (第5版第1刷) 岩波書店 1994年	①妊娠七か月以内に未成熟の死児を生むこと。②計画したことが、途中でだめになること。	出産の時、周期的に起こる腹部の痛み。	出産が通常ではなく、胎児がなかなか生まれないこと。⇔安産。また比喩的に、物事がなかなか成立しないこと。「相聞が一する」
現代国語例解辞典 (第2版第1刷) 小学館 1993年	①妊娠七か月未満で胎児が死んで生まれること。②計画、事業などが途中でだめになり実現しないこと。「業務提携の計画は流産に終わった」	分娩時の周期的、波状的な子宮の収縮に伴う痛み。比喩的に、物事が出来上がるまでの苦労。「陣痛が始まる」	①正常でなかったり、普通以上に苦しんだりして出産すること。⇔安産。「大変な難産だった」②物事が容易に成立しないこと。「議案の成立は大変な難産だった」
新明解国語辞典 (第3版第31刷) 三省堂 1988年	妊娠七か月以内に、胎児が死んで生まれること。[計画した事が完成しないうちにだめになる意にも用いられる]	「陣」は、襲う・ひとしきりの意] 出産の時に周期的に起こり、かつ漸増する腹部(腰部)の痛み。[物事が出来あがるまでの、他人には言えない苦労の意にも用いられる]	出産が正常でなく、胎児がなかなか生まれないこと。[相談などが、なかなかまとまらない意にも用いられる] ⇔安産
角川国語辞典 (第75版) 角川書店 1985年	①[医] 妊娠七か月以内に胎児を死産すること。②計画などが失敗して、成立しないこと。	①[医] 出産のときにかかる腹部のいたみ。②物事ができあがるまでの苦しみ。生みのなやみ。	①出産のとき、胎児が容易に出ないこと。(対) 安産。②物事がなかなか成立しないこと。

<p>日本語大辞典 〔縮刷版〕 (第1版第1刷) 小学館 1981年</p>	<p>①胎児が月満たずに死んで生まれること。妊娠七か月未満で胎児が死んで生まれること。半産。 *中右記ー長治元年八月一日「今日新大納言経実卿妻卒去、依流産」*今昔一一二・三四「此の聖人を懐妊せるに、流産の術を求めて毒を服すといへども」 *こころ《夏目漱石》中・一〇「妹は此前流産（リウザン）したので」②計画・事業などが途中でだめになり実現しないこと。</p>	<p>①分娩時に周期的・波状的に反復して起こる子宮の収縮。不随意的に起こって痛みを伴う。*河明り《岡本かの子》「陣痛のやうにうねりの慄へが強く彼女の指先から私の肩の肉に噛み込まれ」②（転じて）物事ができあがるまでの苦勞。</p>	<p>①出産が困難なこと。苦しんで分娩（ぶんべん）すること。⇨安産。*源平盛衰記一一八・文覚朝朝勧進謀反事「父は六十一、母は四十三にて生れたる一男なり、母は難産（ナンザン）して死ぬ」*運歩色葉「難産なんザン」*仮名草子・浮世物語二・三「産磨明神に参りつつ、この御神は難産（ナンザン）の愁へを守り給ふ」*妻《田山花袋》一五「それに産が神経を昂らせる。難産？死？」*本草綱目一服器部・鑿柄木・主治「難産、取入鉄孔中木、焼末酒服」②（比喩的に）物事が容易に成立しないこと。長引いてなかなか埒（らち）が明かないこと。*社会百面相《内田魯庵》鉄道国有・六「実は国有案が此位難産だらうとは思ひませんでナ」③土蔵に忍び込みにくいこと、土蔵破りに失敗することをいう、盗人仲間の隠語。⇨安産。〔秘密辞典〕</p>
<p>広辞苑 (第3版第1刷) 岩波書店 1983年</p>	<p>妊娠七ヶ月未満の胎児が死んで生まれること。うみながし。半産。→早産（そうざん）</p>	<p>分娩に際し、定期的に反復して起る子宮の収縮。また、その痛み。胎児排出力の主要部分をなすもので、初めは徐々に起り、次第に強烈となる。転じて、物事の完成直前の苦勞にたとえる。</p>	<p>①出産が正常でなく困難なこと。⇨安産。②物事がたやすく成立しないこと。</p>

調査した国語辞典のすべてに出産関係以外の語義が記述されている。どれも第一義は出産に関わる語義で、第二義として、さらに一部は「転じて」「比喩的に」との注釈付きで記述してある。また、調査した和英辞典にも語義と用例が出ており、特に「難産」は英語に直訳できないにもかかわらず出産以外の語義の和文英訳の例が載っている。したがって、出産関係以外の語義は社会的な規範意識として定着していると見ていいだろう。

しかし一方、表1の調査からは政治記事において出産以外の語義での「流産」「陣痛」「難産」の使用例は1996年、1997年にはほとんど見られず、減っていることがわかる。これは、例5の女性記者座談会で指摘されていた問題意識をもって新聞記者が記事を書き出したこともあるかもしれない。

出産関係の語を政治の表現として使用する意識は何であろうか。新聞報道において、「難産の末」のような使い古されたといってしまうほどの表現を少数ながら現時点でも用いられている。また、政治家は政治について出産関係の語を

表 2 - 2 「流産」「陣痛」「難産」の和英辞典の定義の例

辞書名 (版, 刷) 発行所 発行年	「流産」	「陣痛」	「難産」
ブックシェルフ マルチメディア統合辞典 (CD-ROM) マイク ロソフト/小学館1997 年(原典は「プログレッ シブ和英中辞典」第2 版, 小学館, 1993年)	①〔胎児の〕(a) miscarriage 彼女は流産した She had a miscarriage. ②〔物事が成立 しないこと〕計画は流産に終 わった Our plans miscarried [were aborted].	〈米〉labor(pains), 〈英〉labour (pains) 陣痛が起こっている be in labor 陣痛が始まった Her labor has started. / She has begun to have labor pains. / She has gone into la- bor.	①〔難しい出産〕a difficult de- livery 難産だった She had a hard labor [difficult delivery]. / Her labor was hard. ②〔物 事の成立ははかどらないこと〕 協会の設立はなかなかの難産 だった They had a great deal of difficulty in establishing the association.
講談社キャンパス和英 辞典 (第1刷) 講談社 1994年	(a) miscarriage; (an) abor- tion. 彼女は～した She had a miscarriage. 計画はすべて～ した All our plans failed(= mis- carried).	labor; labor pains. 彼女は～が 始まっている She is in labor. ～があった There was the on- set of labor pain. 新企画の実 現には～の苦しみが伴う We have much trouble in real- izing a new scheme.	a difficult delivery; hard labor. 彼女は～した The had hard labor. / She had a diffi- cult delivery. 法案の成立は～ だった The bill was approved after much difficulty.
ライトハウス和英辞典 (第2版) 研究社 1990年	miscarriage. (動) have a mis- carriage, miscarry (自), abort (自)(他) ★abortは「中絶 する」の意にもなる (計画などが失敗する) fail(自); (計画などが流れる) be abor- tive.		(難しい出産) difficult delivery
和英大辞典 (第22刷) 研究社 1990年	1 〔胎児の〕(an) abortion; (a) miscarriage; an abortive birth. ～surv. miscarry; abort; produce an abortion (故意に); [人が主語] have a miscarriage. 彼女は愛人の 胤(たね)を宿していたが、～ した She received the dear pledge of his love, but unfor- tunately suffered a miscar- riage. 2 〔比喩的に〕(a) failure; (an) abortion; (a) miscarriage. ～suru v. fail; miscarry; fall through; do not materialize; prove abortive. ～に終わる come to an abortive end. K内 閣は～になった。The proposed formation of the K Cabinet proved abortive.	labor (pains); travail; throes. ～微弱(羅) ～力 activity of labor pains. ～中である be in travail[labor]. ～を覚える suffer throes[pains](of child- birth); feel pains. 〔陣痛の〕～ の発作 the onset of labor pains. ～の圧迫 pressure pro- duced by labor pains. その国 は今革命の陣痛期にある。 The country is now in the throes of revolution.	hard labor; difficult delivery; a complicated birth. ～suru v. have a difficult delivery; be delivered of a child with diffi- culty; have a difficult time in giving birth((to)). お産は～で あった。She had hard labor. 彼女は28の時にかなりの～をし た。At twenty-eight she had a rather hard time giving birth to a child. 私の妻は男の子を産 んだが、とても～であった。 My wife gave birth to a baby boy, but it was an extremely difficult birth. 今度の組閣はな かなかの～だった。The new cabinet was formed with much difficulty.

用いて表現し、しばしば「問題発言」としてマスコミを通して世間に注目される。とはいえ、このような表現自体に相手を侮辱するマイナス評価の意味が含まれているとは言えない。しかし、世間で問題視されることがあるように、そ

の表現が第三者を侮辱する結果となりうる場合もある。つまり、その表現の使い方次第では問題になるということである。例1と2で取り上げた東京都議会の例も発言者は女性を意識してのことではなかったようであるが、結果として女性議員からの抗議を受けることになった。

4. ステレオタイプの表現の問題点

新聞記事のステレオタイプの表現については、田中（1984）、田中・諸橋（1996）、遠藤（1993）の女性を表す表現の調査の中でも指摘されている。ここで、政治記事における出産関係のステレオタイプの表現の使用の拡大に対する問題点を3つ挙げたい。

(1) 表現の固定化、硬直化を引き起こす。

ステレオタイプ化には、本来そのものをさす語を用いない、または、別の表現を工夫しようとしないうという2つの危険性がある。表現の固定化、硬直化が起こり、そのような表現が定着し、意味の固定化、硬直化が起こる。例えば、「政権発足」「政権成立」→「政権誕生」、「補佐役」→「女房役」、「挫折」→「流産」となる。このような比喩表現がステレオタイプ化し、やがて辞書の定義に掲載され、辞書の意味として社会に定着すると、政治以外の話題についても使用されることになる。

(2) 安易な表現効果をねらう。

また、その比喩表現を用いる切実な理由があつて用いているのかどうかという問題も考えられる。表現効果をねらったつもりが、毎度同じような話題が出てくるたびに同じ表現を用いれば、読み手に大した印象を与えない、平板な表現になる。

(3) 書き手と読み手との間で理解し合えない溝が深まる。

さらに、書き手の考える表現が読み手には理解できない恐れがある。ある社会でその語の意味するものは何かを読み手が想像し、その語の意味を読み取るとする。例えば専門用語なら調べたらある程度意味がわかるし、共有の意味として理解できることも可能であろう。しかし、ステレオタイプの表現はその表現が読み手に与える印象、書き手が読み手にこのように読み取ってほしいという意図も含む。書き手と読み手の共有する意味がなければ書き手の意図は読み手には伝わらないだろう。

5. おわりに

以上、政治記事におけるステレオタイプの表現として、出産関係の語の使用について考察した。これは、使用する語彙があるのにそれを用いず、比喩表現で表し、さらに、ある特定の内容にある特定の比喩表現が集中して用いられる現象である。

社会における言語使用のステレオタイプ化はその社会の人々の意識を反映する手がかりの一つになろう。必ずしもその社会の全構成員ではないが、少なくともある特定の集団の意識あるいは無意識下に潜む潜在意識は反映しているのではないだろうか。特に、政界、マスコミは社会を左右する力を持ちやすい集団であるから、これらの集団に属する人々の用いる表現はその社会のあり方を示す手がかりの一つとして注目に値する。

参考文献

- 池上嘉彦 1975『意味論』大修館書店
- 遠藤織枝 1993「女性を表す語句と表現－新聞の人物紹介と雑誌広告の欄から」
『日本語学 5月臨時増刊号－特集 世界の女性語日本の女性語』
第12巻第6号，明治書院，pp. 193－205
- 木戸光子 1995「マスコミの文章」『國文学 1月臨時増刊号－特集 文章の
ルール・ブック』第40巻第2号，學燈社，pp. 95－115
- 国広哲弥 1982『意味論の方法』大修館書店
- 後藤齊 1993『『神話』の比喩的用法について－コーパス言語学からのアプローチ』『東北大学言語学論集』第2号
- 田中和子 1984「新聞にみる構造化された性差別表現」『マスコミと差別語問題』明石書店
- 田中和子・諸橋泰樹1996「新聞は女性をどう表現しているか」『ジェンダーからみた新聞のうら・おもて－新聞女性学入門』田中和子・諸橋泰樹編著，第1章，現代書館，pp. 38－80

中村明（国立国語研究所）1977『比喩表現の理論と分類』秀英出版

れいのるず・秋葉かつえ編 1993『おんたと日本語』有信堂高文社